

第 2 章

白河市の概況

1 現況

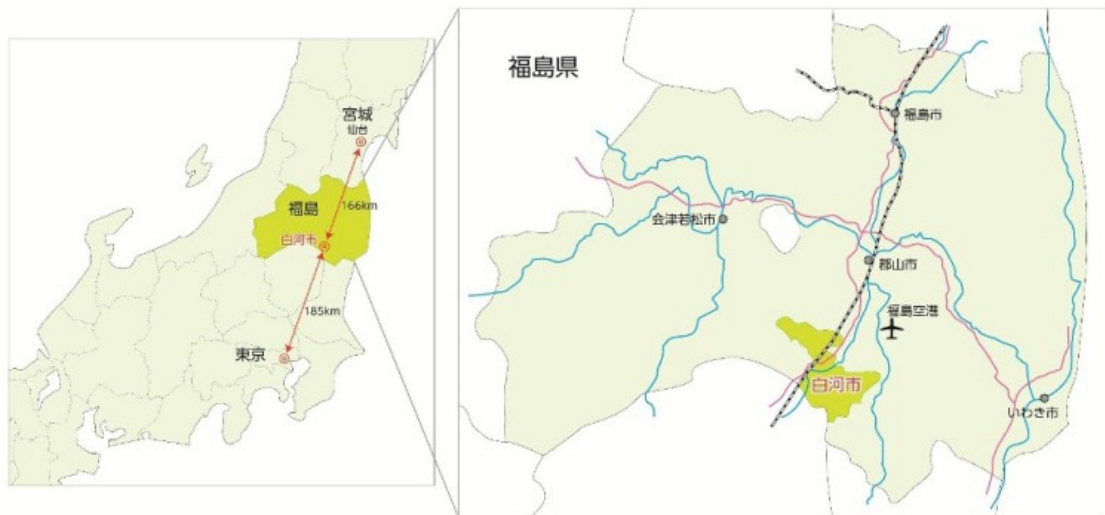
(1) 白河市の位置

▶▶▶ 福島県最南端の都市

本市は、那須連峰を望む福島県の南部中央に位置し、市の中心部から福島市まで約 90 キロメートル、東京都心までは約 185 キロメートルの距離にあります。市域は、東西に約 30 キロメートル、南北に約 30 キロメートルに広がり、総面積は 305.32 平方キロメートルとなっており、約半分を山林が占めています。

市内には阿武隈川、社川、隈戸川をはじめとする多くの河川が縦横に流れ、これらの源流域には優良農地が広がり豊かな田園風景を形成しています。また、市の中心部では阿武隈川に沿って東西にコンパクトな市街地が広がっています。

白河市の位置



(2) 都市環境

▶▶▶ 新幹線・高速道路が通り、首都圏等からアクセスが良好 東北自動車道へのアクセス性の向上による来訪者拡大の可能性

本市は、奥州の三古関が設けられた地の一つとして古くから交通の要衝として発展してきました。現在はみちのくの玄関口として、東北自動車道や東北新幹線などの高速交通体系に加え、首都圏に隣接する立地条件や地盤が固く良質で豊富な水に恵まれるなどの地域特性を生かして、製造業を中心にさまざまな企業活動が展開されています。さらに、平成21年8月に白河中央スマートICが開通し、市中心部から高速道路へのアクセスが一層向上しており、産業集積等による地域の活性化が図られるとともに、都市機能が高まっています。

市内には市立図書館「りぶらん」や白河文化交流館コミネスなどの施設が誕生し、賑わいのある中心市街地づくりが進められるとともに、郊外型の大規模ショッピングセンターが相次いで建設されるなど、衣・食・住が充実した暮らしやすい生活環境が形成されています。

本市へのアクセスについては、都心までを約1時間30分で結ぶ東北新幹線をはじめ、東北自動車道、車で30分の距離にある福島空港などの高速交通体系に恵まれ、さらにはJR東北本線、幹線道路である国道4号、国道289号及び国道294号などにより、首都圏とのアクセスや広域的な交通の利便性に富んでいます。また、圏央道の全面開通(平成30年)により、東北自動車道沿い以外の首都圏市町村からのアクセスが良好になっています。

本市の交通網の概況



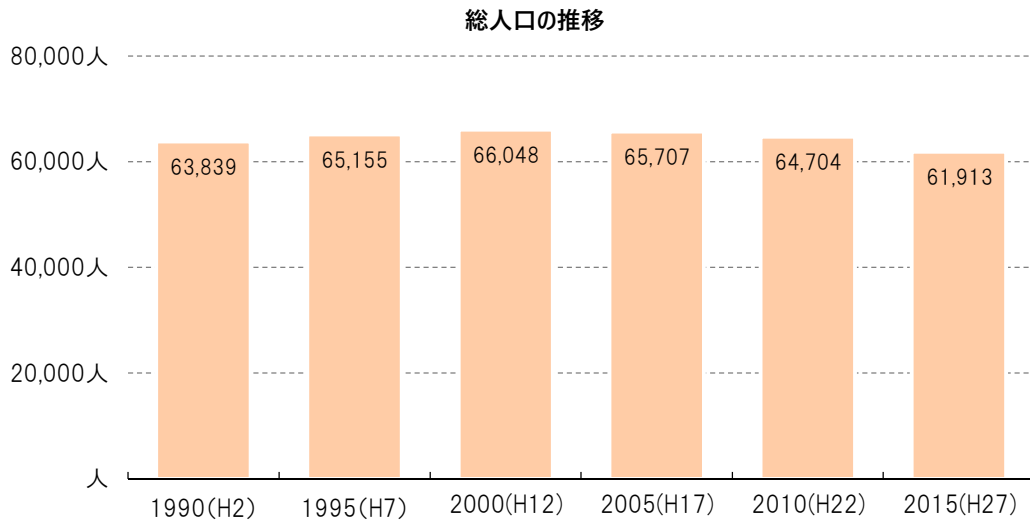
5県ループの考え方



(3) 本市の人口

▶▶▶ 人口は減少に転じ、今後も減少が続くことが推測される

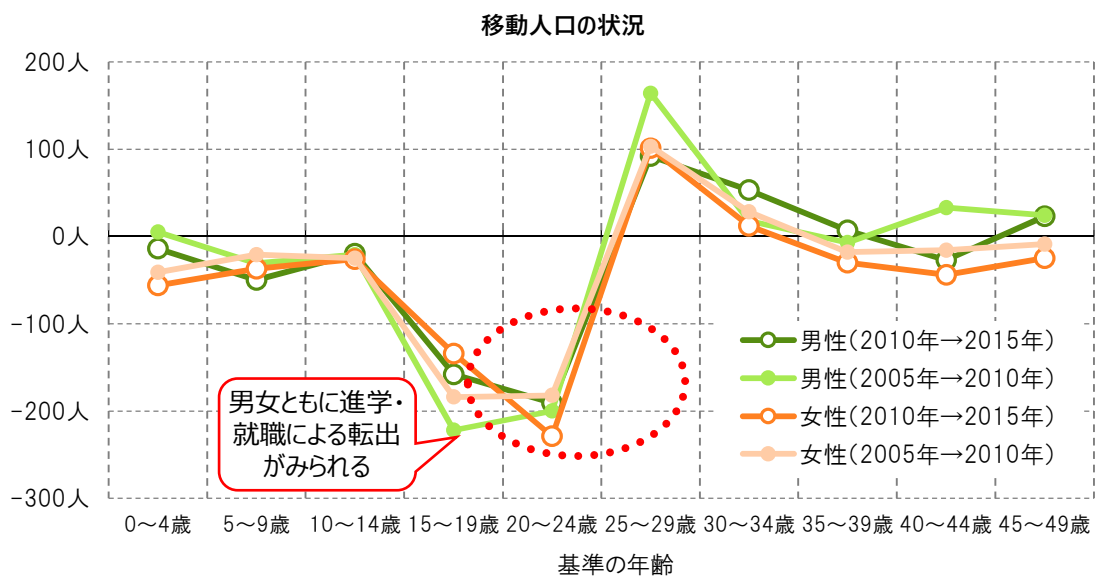
本市では平成2年以降人口が増加していましたが、平成12年の約66,000人をピークに減少に転じており、平成27年には約62,000人まで減少しています。



資料：国勢調査

▶▶▶ 進学・就職を機とした10代後半の転出が顕著

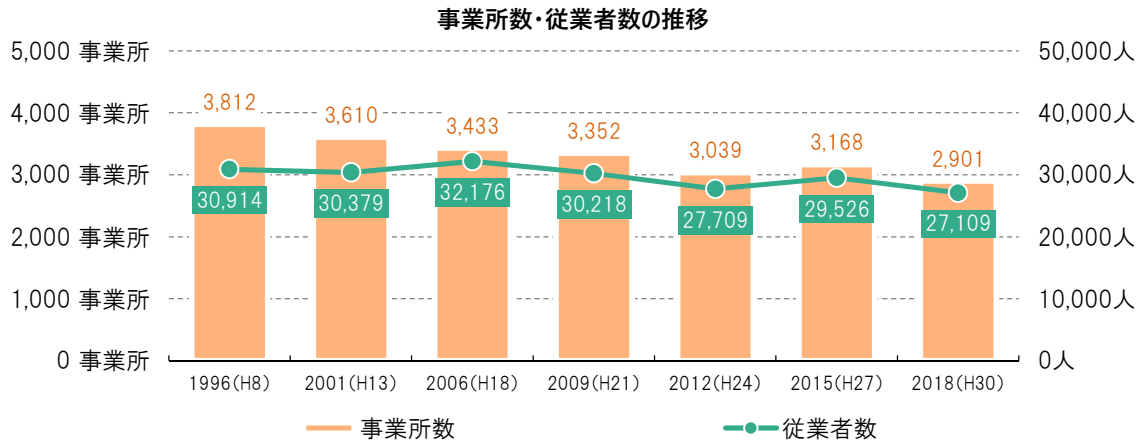
移動人口をみると、男女ともに20歳代前半の転入が多くなっているものの、進学・就職を機とした10代後半の転出が顕著となっています。



資料：国勢調査

市内の従業者は減少傾向

白河市在住の従業者数のうち、市内で従業している割合は7割弱となっています。また、白河市在住の西郷村、泉崎村での従業者数が、西郷村、泉崎村在住の本市での従業者数を上回っています。



資料：事業所・企業統計調査（平成18年以前）／経済センサス活動調査



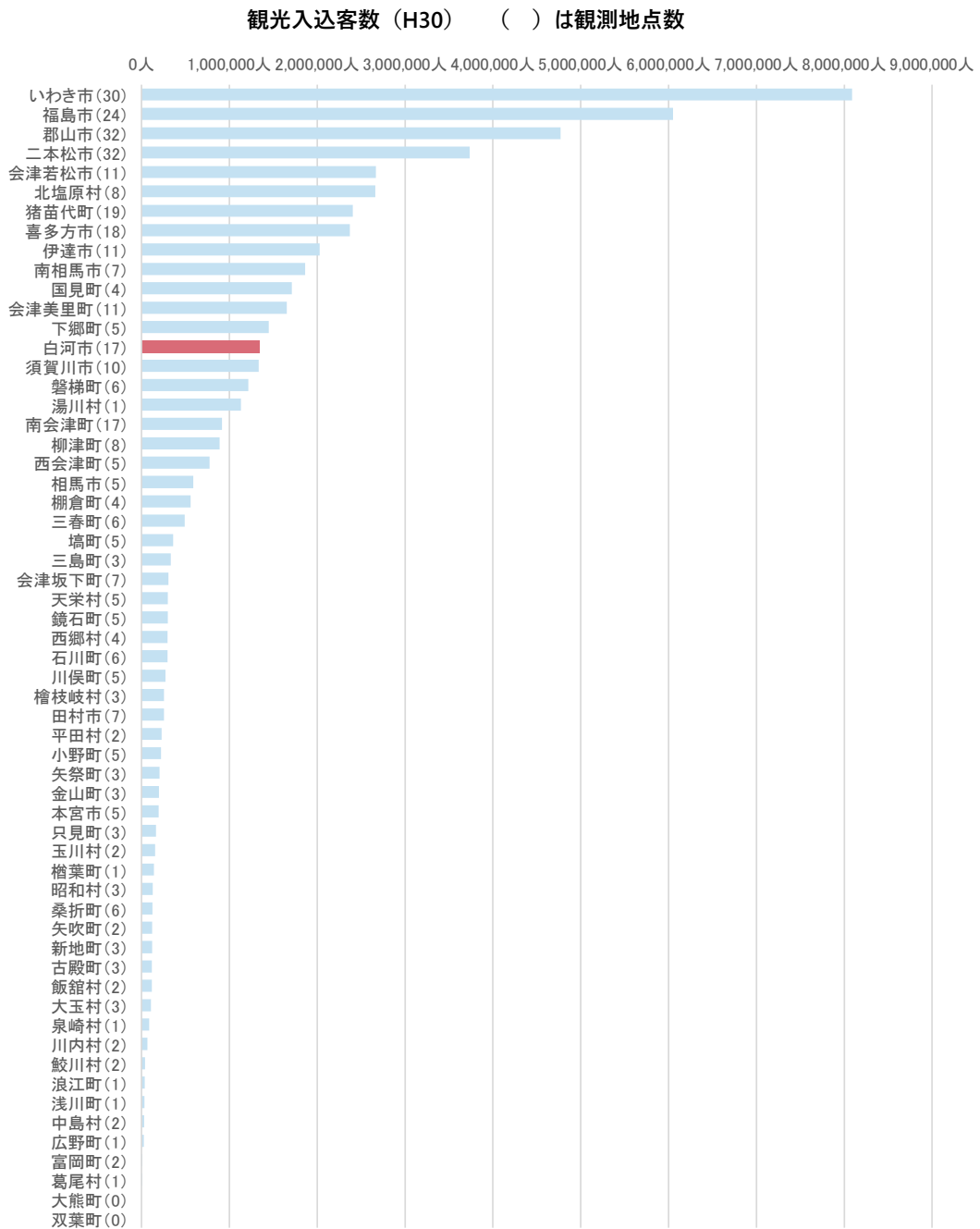
資料：国勢調査（平成27年）

2 観光の状況

(1) 本市の観光入込客数

▶▶▶ 県内 59 市町村中 14 位、13 市中では 9 位に位置する

福島県の観光入込客数は、いわき市、福島市、郡山市、二本松市、会津若松市など、各地域の主要都市が上位となっており、本市は約 133 万人で県内 14 位となっています。



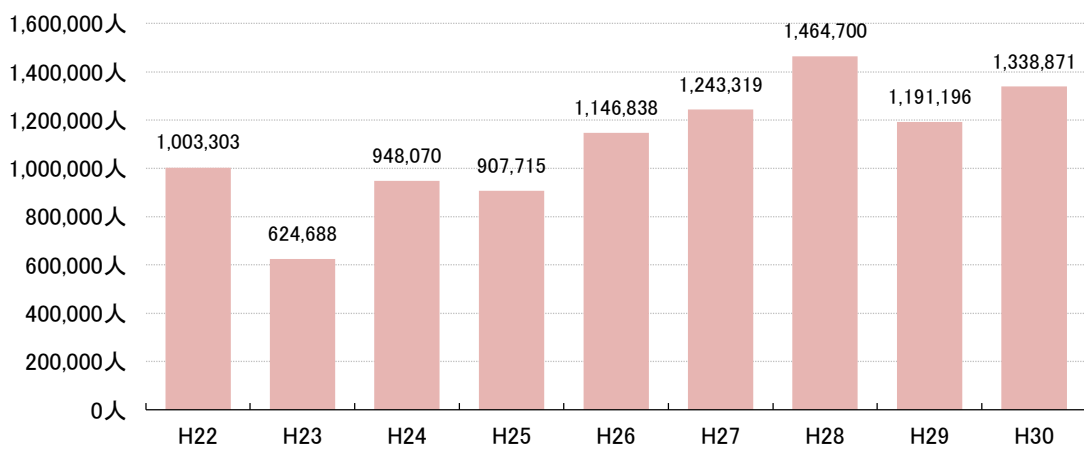
資料：福島県「観光客入込状況」

▶▶▶ 観光入込客数は東日本大震災以前の水準を上回るが
直近の実績が落ち込んでおり、観光入込客数の伸びは鈍化している

福島県全体の観光入込客数は東日本大震災の発生により、震災前（平成22年）の約6割まで落ち込んでいましたが、徐々に回復してきており、平成30年には震災前とほぼ同水準まで戻ってきています。

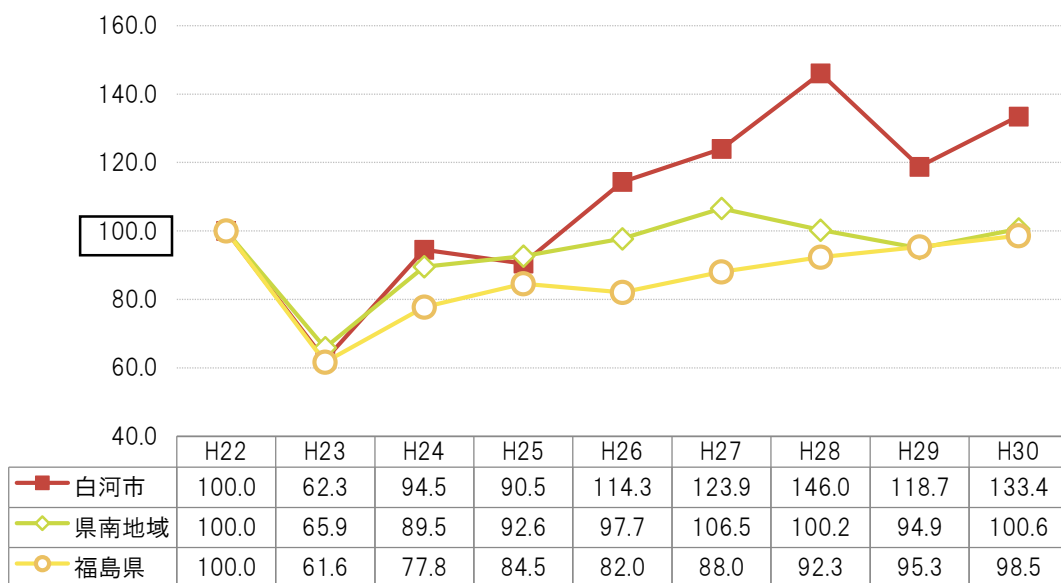
白河市では、平成25年から平成28年にかけて増加しており、震災前（平成22年）の水準を上回って推移しています。

本市の観光入込客数の推移



資料：福島県「観光客入込状況」

観光入込客数の推移（H22を100とした数値）



資料：福島県「観光客入込状況」

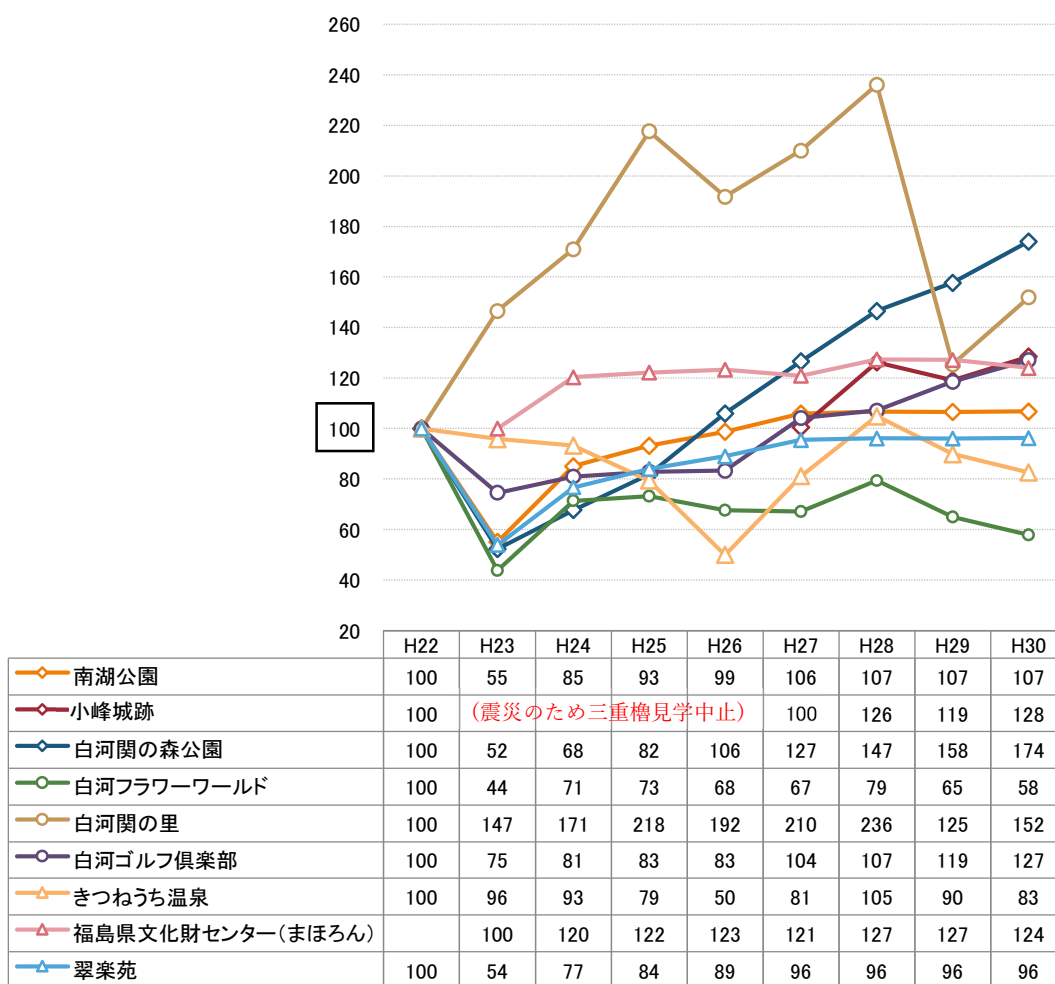
主な観光地の入込客数は、白河関の森公園、白河関の里で震災前の水準を大きく上回っています。そのほか白河ゴルフ倶楽部、福島県文化財センターまほろん、においても増加傾向にあります。

小峰城跡は東日本大震災で崩落した石垣の修復が進められ、三重櫓の公開を再開してからは増加傾向にあります。

※「白河関の森公園」……国史跡「白河関跡」に隣接する公園です。園内には小川が流れ、遊具や水車小屋、物産コーナーなどがあります。

※「白河関の里」……表郷地区にある、豊かな自然を利用したリゾートコテージです。令和2年3月時点で休業中です。

主な観光地の入込客数の推移（H22を100とした数値）



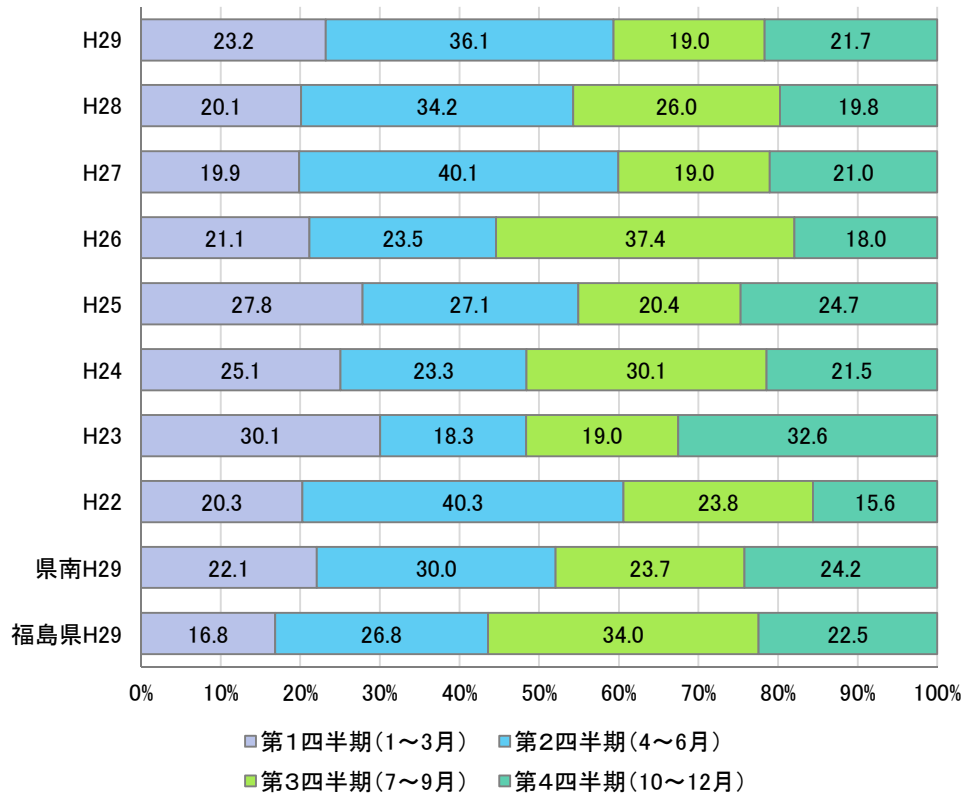
※「福島県文化財センターまほろん」は平成23年が基準

資料：福島県「観光客入込状況」

▶▶▶ 来訪時期は桜の季節にあたる第2四半期（4～6月）の割合が高い

四半期別の観光入込客数は、近年では桜の季節にあたる第2四半期（4～6月）が最も多くなっており、県全体の同時期の割合よりも10ポイント弱上回っています。

本市の四半期別の入込客数の推移



単位：人	第1四半期 (1～3月)	第2四半期 (4～6月)	第3四半期 (7～9月)	第4四半期 (10～12月)
H22	203,185	404,526	238,984	156,608
H23	187,719	114,603	118,990	203,376
H24	237,633	221,311	285,660	203,466
H25	252,492	245,753	185,133	224,337
H26	242,392	269,299	429,185	205,962
H27	247,036	498,001	236,654	261,628
H28	294,529	500,401	380,196	289,574
H29	276,571	430,266	226,083	258,276

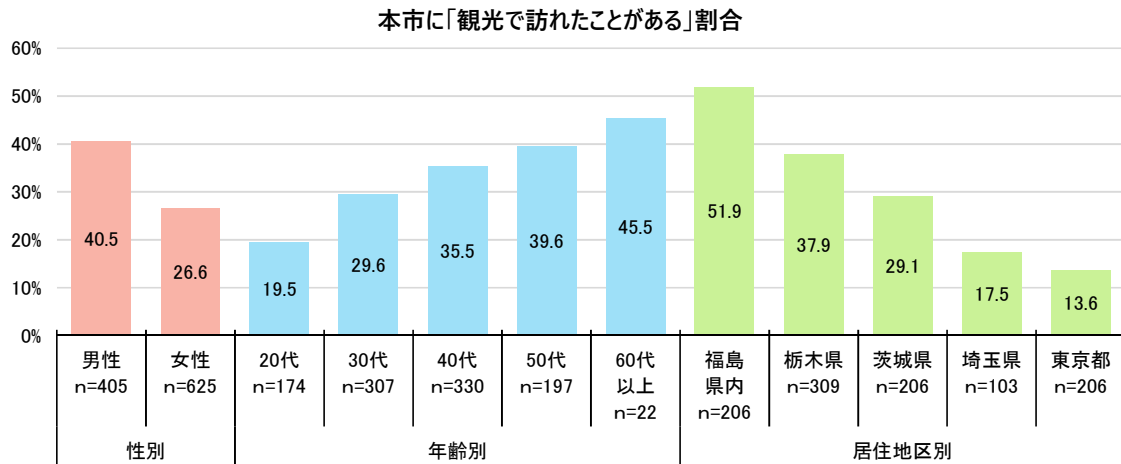
資料：福島県「観光客入込状況」

(2) 観光客の傾向

▶▶▶ 近隣からの来訪が多い。また、高齢になるほど、来訪経験割合が高くなる

本市への来訪経験については、福島県内でも半数程度であり、栃木県・茨城県では30%~40%前後となっています。

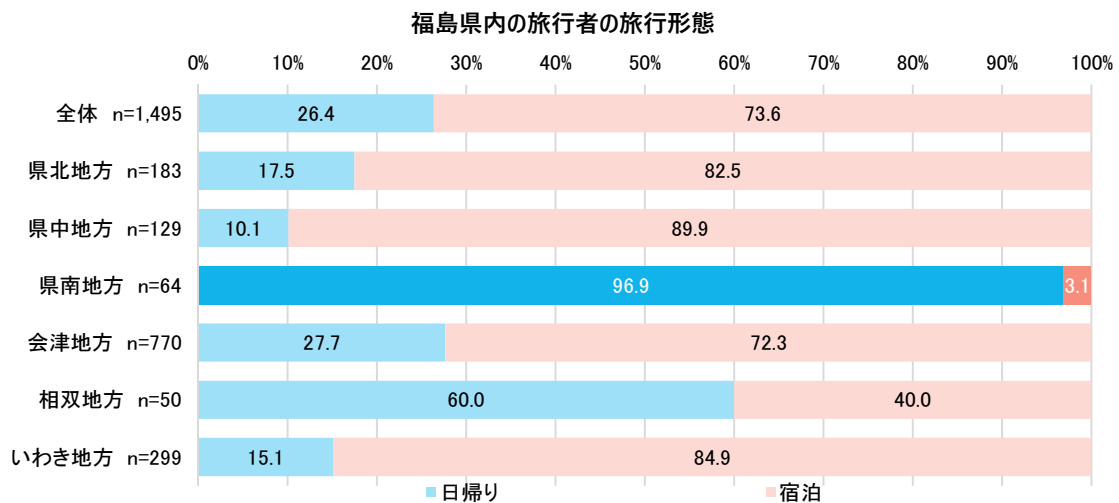
年代別では、高齢になるほど来訪経験が上がり、60代以上では40%台となっています。



資料：白河市 Web アンケート調査

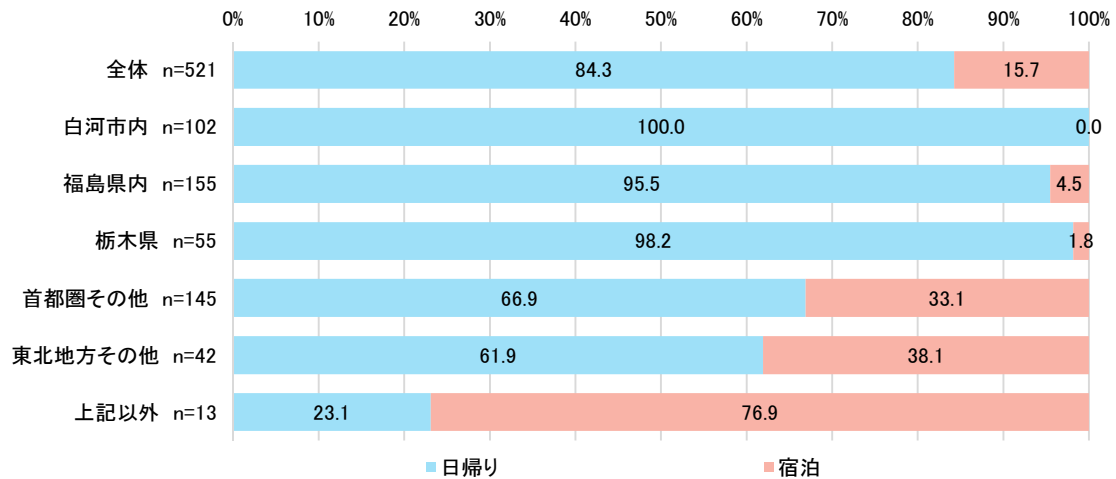
▶▶▶ 県南地方への旅行者は日帰り観光がほとんどを占める 首都圏から来た本市への来訪者も「日帰り」>「宿泊」

福島県南の旅行者の旅行形態は、ほとんどの来訪者が「日帰り」となっています。本市への来訪者も同様の傾向があり、首都圏においても「日帰り」が「宿泊」を上回っています。



資料：福島県観光地実態調査報告書（平成28年度）

本市来訪者の旅行形態（居住地区別）



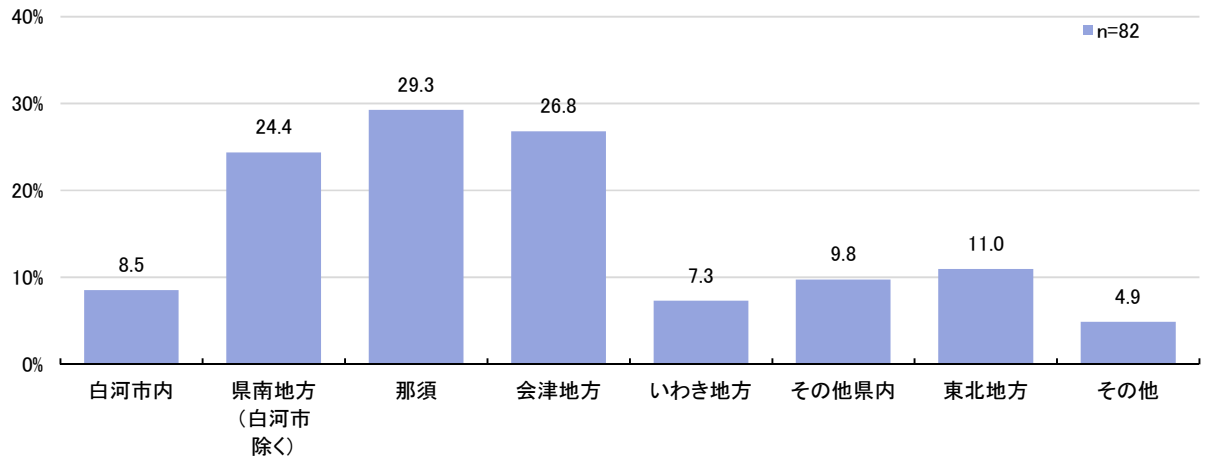
資料：白河市来訪者アンケート調査

▶▶▶ 宿泊者は那須・会津地方と合わせた来訪が多く、本市は「中継地」の要素が強い
市内への宿泊が少ない傾向がある

本市への来訪者は那須、会津地方と合わせて来訪する人が多くなっています。

宿泊先は市外が多く、本市は「中継地として寄る」傾向があります。また、那須町や西郷村など白河市近辺に宿泊する割合が高く、市内への宿泊の割合が低くなっています。

本市来訪者の宿泊先（宿泊有の来訪者のみ）



資料：白河市来訪者アンケート調査

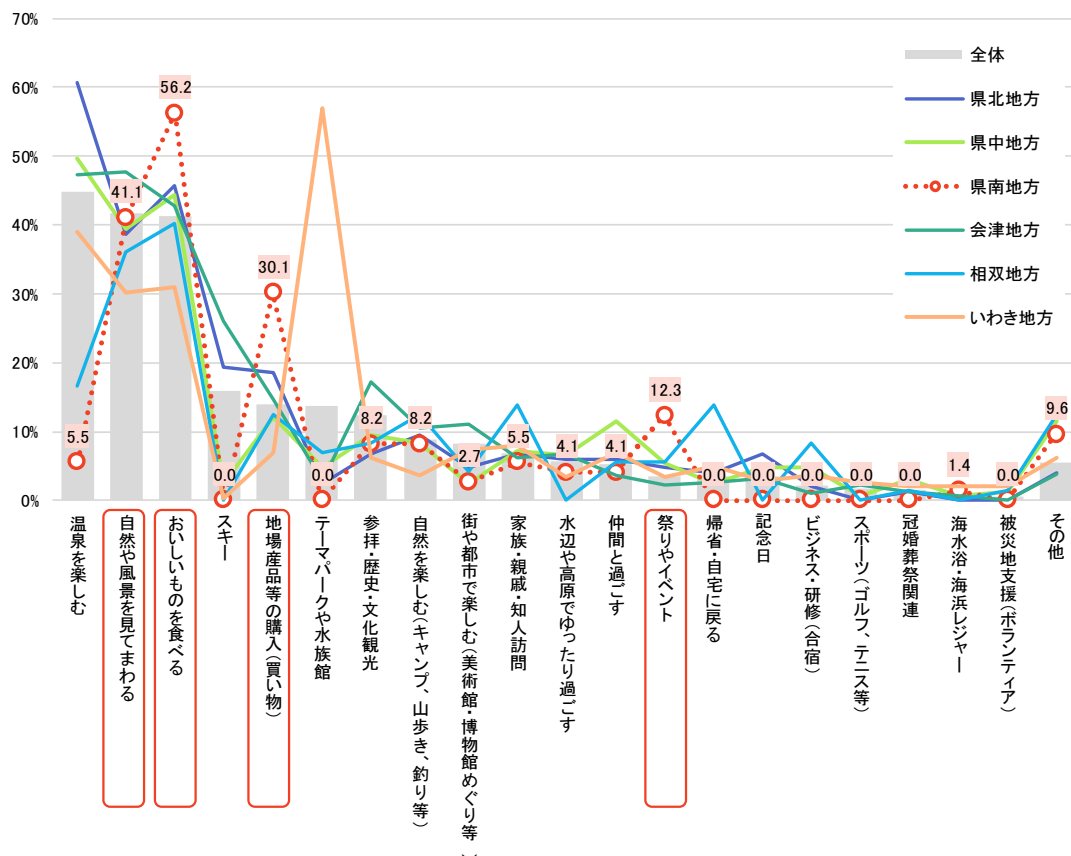
「食」「歴史的遺産」を目的とした来訪者が多い

観光客の旅行目的は、福島県全体では「温泉を楽しむ」「自然や風景を見てまわる」「おいしいものを食べる」が他を引き離して上位となっています。一方で、県南地方は、「おいしいものを食べる」「地場産品等の購入（買い物）」が他の項目に比べて高くなっています。

本市の観光客の来訪の際に期待することでは、「食べ物」「歴史的遺産」の割合が高くなっており、白河ラーメンや3大観光地（小峰城跡・南湖公園・白河関跡）等の訴求力が高いことがうかがえます。

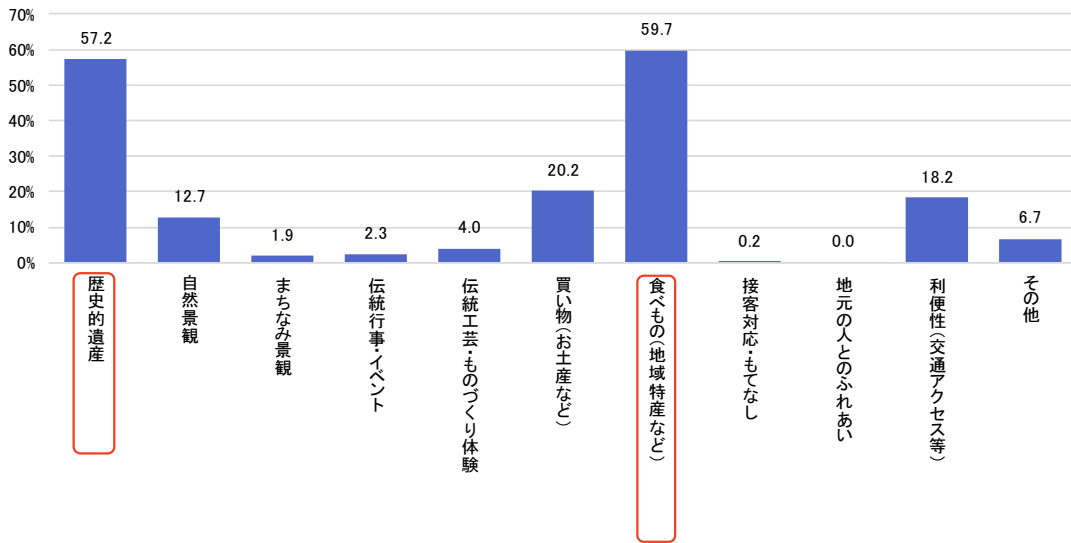
※「3大観光地」……本市には、多くの歴史的遺産があり、中でも、国史跡（及び名勝）の小峰城跡、南湖公園、白河関跡は、多くの市民が「白河市のシンボル」と感じており、また、本市観光の中心として多くの観光客が訪れていることから、この3ヶ所を本計画では「3大観光地」と設定しています。

観光客の旅行の目的（来訪地域別）



資料：福島県観光地実態調査報告書（平成28年度）

本市の観光客の来訪の際に期待すること



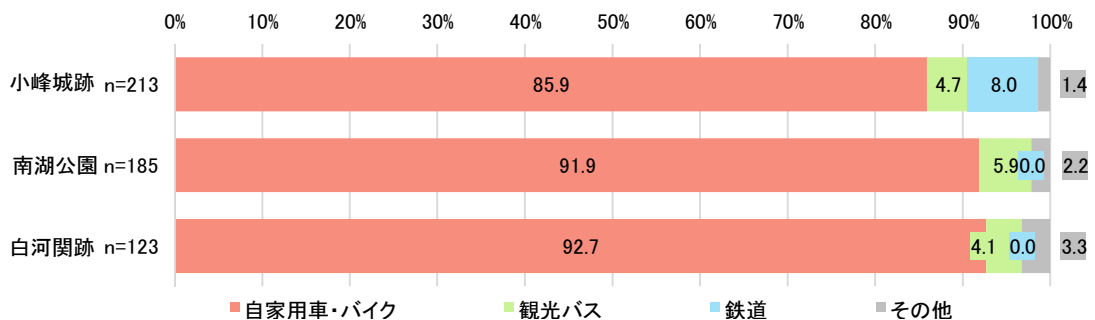
資料：白河市来訪者アンケート調査

▶▶▶ 交通手段については、市内主要観光地へのアクセスは自動車ほとんど

市内3大観光地への来訪の交通手段については、自動車での来訪が大半を占めています。

市内の二次交通については、JRバス関東、福島交通バス、白河市循環バス「こみねっと」があります。JR駅（新白河駅、白河駅）からの3大観光地への徒歩及び公共交通については、小峰城跡が白河駅から徒歩でのアクセスが可能となっています。一方で、南湖公園へのアクセスはJRバス関東及び白河市循環バス「こみねっと」、白河関跡へは福島交通バスに限られており、運行本数の少なさによりアクセスが容易でないことが課題となっています。

3大観光地への来訪の手段



資料：白河市来訪者アンケート調査

(3) 3大観光地の来訪者の状況

① 本市の3大観光地について

本市には、1300年代中頃に結城親朝により築かれたのがはじまりとされる「小峰城跡」をはじめ、白河藩主松平定信が「士民共楽」の地として築造した「南湖公園」、古代より歌枕（和歌の名所）として名高い「白河関跡」があります。これらは、本市の3大観光地として市民や来訪者に親しまれています。

～小峰城跡～

■概況

- 阿武隈川と谷津田川^{やんたがわ}の間に位置する、小峰ヶ岡と呼ばれた丘陵に築かれた梯郭式^{ていこくしき}平山城。
- 寛政の改革で知られる松平定信をはじめ、7家21代の大名が居城したが、慶応4年（1868）戊辰戦争白河口の戦いで落城。約120年の時を経て、平成3年に三重櫓、平成6年に前御門が江戸時代の絵図や発掘調査に基づき、木造で復元された。
- 東日本大震災により石垣等が崩落したため、三重櫓を含めた本丸は立入禁止となっていたが、平成27年4月に修復が一部完了し、三重櫓の見学を再開。平成31年3月には、震災で崩落した石垣の修復が完了した。



■特徴

- 東北地方では珍しい石垣を多用した城で国史跡。盛岡城、会津若松城と共に「東北三名城」の1つにも数えられている。国指定史跡に指定されているほか、日本100名城の一つである。
- 城内には約180本の桜があり、県内有数の桜の名所である。また、小峰城の改修時の人柱の言い伝えに関わる「おとめ桜」がある。



■関連施設等

- JR白河駅から約500mと徒歩での来訪が可能であり、無料駐車場（113台）も整備されている。隣接する白河文化交流館コミネスの無料駐車場（313台）も利用できる。
- 周辺は城山公園として整備され、イベント時などにも活用される。
- 「小峰城歴史館（旧「白河集古苑」、平成31年4月リニューアル）」では、歴代城主に関する実物資料の展示と、江戸時代の小峰城をCGで復元した映像の上映など、小峰城のガイダンス展示を行っている。
- 二ノ丸茶屋（お土産及び軽食、平成30年4月リニューアルオープン）では、ご当地メニューの白河だるまバーガー（白河高原清流豚カレー風味カツ）や、白河銘菓、白河だるまや小峰シログッズなど、小峰城ならではのお土産等を販売。その他、御城印の販売、甲冑の着付け体験での記念撮影、観光PR映像の放映などを行っている。



～南湖公園～

■概況

- 白河藩主 12 代松平定信が「大沼」と呼ばれていた湿地帯に堤を築いて水を溜め、庭園の要素を取り入れて享和元年（1801）に築造した地である。
- 定信は、「士民共楽（武士も庶民も共に楽しむ）」という理念のもと南湖を築造した。
- 大正 13 年（1924）に国の史跡および名勝に指定されている。また、現在は都市公園（風致公園）に分類される。
- 周囲は南湖県立自然公園に指定されているほか、平成 22 年 3 月に南湖として農林水産省の「ため池百選」にも選定された。

■特徴

- 景色を整え、庶民にも開放したことから、近代公園制度の先駆けとも言われる。
- 定信が景色の良い場所 17 か所を選び（南湖十七景）、親しい大名・公家等にその場所を題した和歌と漢詩を依頼した。寄せられた和歌・漢詩を刻んだ石碑が共楽亭側に建っている。
- 県内でも希少な動植物が見られる地である。
- 春には桜、初夏には新緑、秋には紅葉、冬には雪景色と、四季折々の風景を楽しむことができる。

■関連施設等

- 共楽亭：南湖を見渡せる眺めの良い場所に定信公が建てた茶室。身分の区別なく誰もが楽しめるようにという、定信公の「士民共楽」の理念を反映している。
- 南湖神社：大正 11 年に実業家渋沢栄一の援助のもと完成。祭神は松平定信。境内には、定信ゆかりの茶室「松風亭蘿月庵」があるほか、春になると「楽翁桜」が参道を美しく彩る。
- 翠楽苑：日本文化の伝承を体現する施設としてつくられた日本庭園。8 月初旬に「灯籠茶会」、秋には「十五夜月見会」が開催される。
- そのほか、近辺には食事処、カフェが軒を連ねており、食事（軽食）を目的とした来訪者も多い。
- 南湖だんごが有名である（南湖造築のために働く職人達に振る舞ったことから始まったと伝えられる）。



～白河関跡～

■概況

- 奈良時代から平安時代頃に機能していた。鼠ヶ関（山形県鶴岡市）・勿来関（福島県いわき市）とともに、奥州三古関のひとつに数えられる。
- 蝦夷の南下や人、物資の往来を取り締まる機能を果たしていたと考えられている。その後律令制の衰退とともにその機能を失った。
- 「歌枕」として文学の世界で都人の憧れの地となり、能因や西行、松尾芭蕉など時代を代表する歌人・俳人たちが多くの歌や句を残している。
- 白河藩主であった松平定信が、ここが白河関跡であるとして寛政12年（1800）に「古関蹟碑」を建てた。
- 関跡には、源義経の伝説が残る木や、樹齢約800年の「従二位の杉」など多くの樹木が残っている。
- 昭和41年に国史跡に指定された。



■特徴

- 以前から全国高校野球選手権大会や選抜高等学校野球大会において、東北地方の出場校の優勝を期待する例えとして「優勝旗が白河関を越える」などと言われてきた。近年東北地方の出場校が勝ち残るようになり、特に平成30年夏大会で秋田県立金足農業高等学校が決勝まで進んだことから、「白河関」が大会ごとにさらに注目されるようになった。



- 4月中旬頃には関跡一面かたくりの花が咲く。

■関連施設等

- 白河神社：史跡地内の丘陵上にある神社で、江戸時代にあった住吉神社と玉津島神社を合祀して改称した。平安時代の白河郡内七つの神社の一つであるとも言われる。
- 白河関の森公園
 - ・白河関跡に隣接しており、公園の施設には、直家造りの藁葺き民家「ふるさとの家」、そば打ち体験ができる「水車小屋」のほか「相撲道場」がある。また、園内には様々な花木が植えられおり、四季折々の自然を楽しむことができる。
 - ・白河のお土産をそろえた「売店」、打ちたてのそばが食べられる食事処「関守亭」がある。また、毎年秋には「関の森公園 新そばまつり」が開催される。
 - ・大型遊具や芝生広場があり、観光客だけでなく、市内・近隣市町村の子育て世代の来訪も多い。

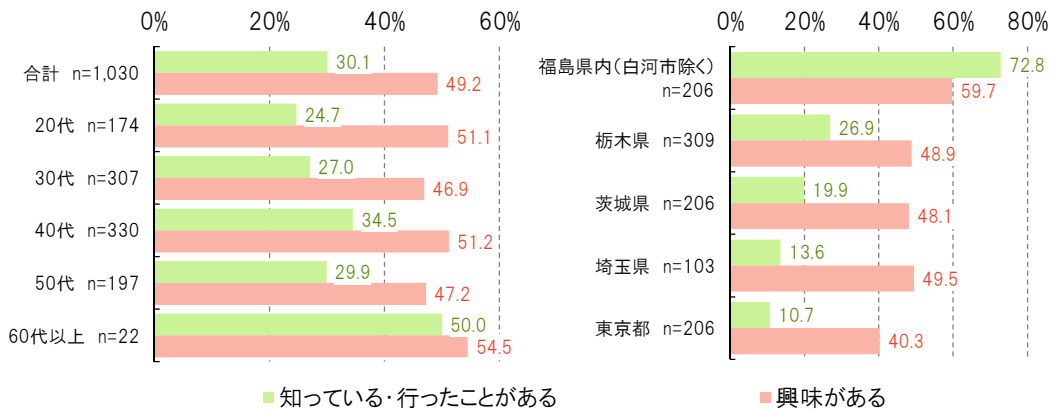


② 小峰城跡

❗ **本市を代表する観光地としての訴求力は高くアクセスしやすい
本市の観光の中心地としてハブ機能や他の観光地の周遊を促す仕組みが必要**

■小峰城跡の認知度・興味（市外 web アンケートより）

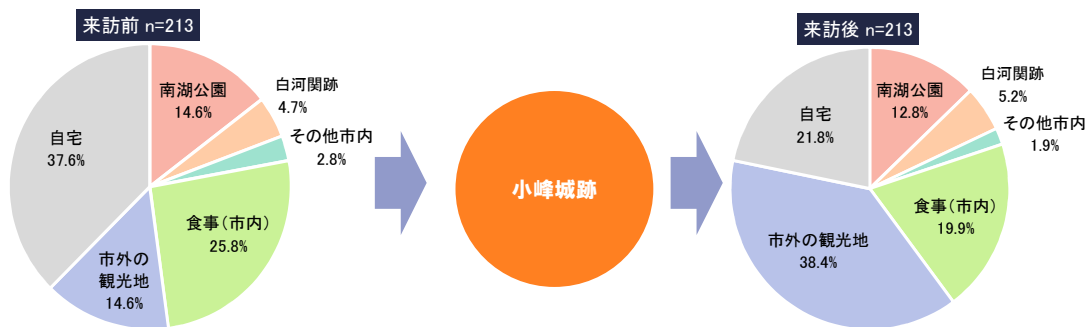
○「知っている・行ったことがある」割合は40代・60代以上で高い傾向があります。また、居住地区別にみると、福島県内での認知度は7割を超えています。首都圏市町村については、栃木県で認知度がやや高いものの、「興味がある」割合は茨城県・埼玉県とほぼ同等となっています。



■観光客の動向（前後の来訪場所：白河市来訪者アンケート調査より）

○来訪前、来訪後ともに、「自宅」「市外の観光地」が5割を超えており、小峰城跡の他に本市で観光、食事をする人を上回っています。

○小峰城跡の他に本市で観光、食事をする人の約半数が「食事」となっており、「南湖公園」「白河関跡」など、市内の他の観光地を来訪する人は限定されています。



■外国人の反応（平成31年2月実施「モニターツアー」より）

- 城は「日本らしさ」を感じることができる場所の一つである。小峰城跡は城跡ではなく、綺麗に復元されているため、大変興味を惹く。
- 城だけでなく、堀や石垣、公園の芝生などが整備されているのが美しい。
- 一方で、日本の城は似ているため、小峰城のアイデンティティがわかりづらい。
- 小峰城は他の城に比べてコンパクトである。

■その他の意見

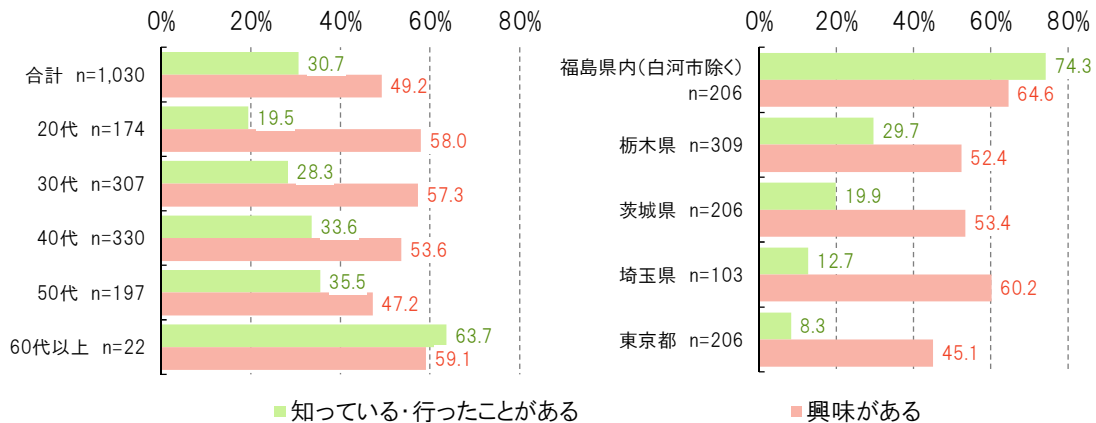
- 城めぐりや戊辰戦争ゆかりの地として訪れる人も多い。
- 駐車場が整備されていることもあり、団体旅行の観光客も多い。一方で、滞在時間が長く割れない場合が多い。
- 二ノ丸茶屋があるものの、消費活動をするところが少ない。

③ 南湖公園

❗ 近年、店舗改修や新しいカフェが開店し、誘客の基盤が整いつつある
 景観の良さのPRや消費活動（飲食）の付加価値化により、関心の高い高
 年齢層だけでなく、若い世代への誘客も期待できる

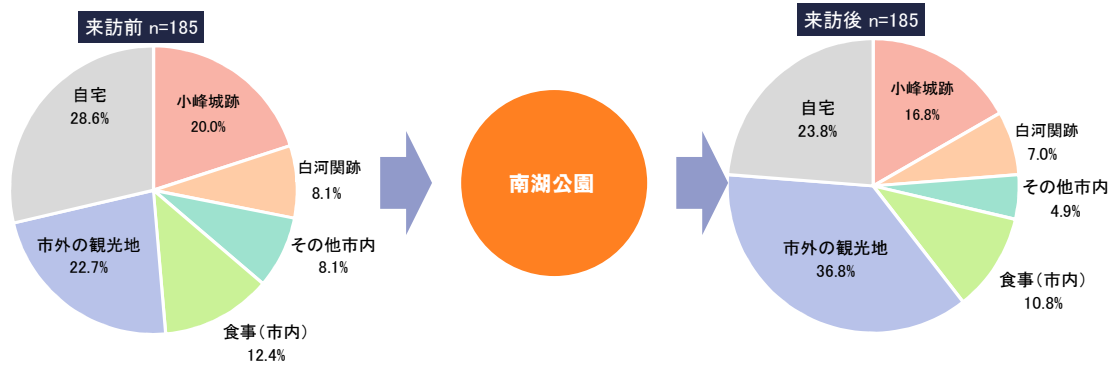
■南湖公園の認知度・興味（市外 web アンケートより）

○「知っている・行ったことがある」割合は60代以上で高くなっています。「興味がある」割合は50代以外でも軒並み5割台と、幅広い年代層の関心も高いことがうかがえます。首都圏の認知度が低い一方で、「興味がある」割合は栃木県・茨城県・埼玉県で5～6割となっています。



■観光客の動向（前後の来訪場所：白河市来訪者アンケート調査より）

○来訪前、来訪後ともに、「自宅」と「市外の観光地」が5割を超えており、南湖公園の他に本市で観光、食事をする人を上回っています。
 ○南湖公園の他に「小峰城跡」を訪れる割合（来訪前 20.0%・来訪後 16.8%）がその逆（来訪前 14.6%・来訪後 12.8%）よりも高くなっています。



■外国人の反応（平成31年2月実施「モニターツアー」より） ■その他の意見

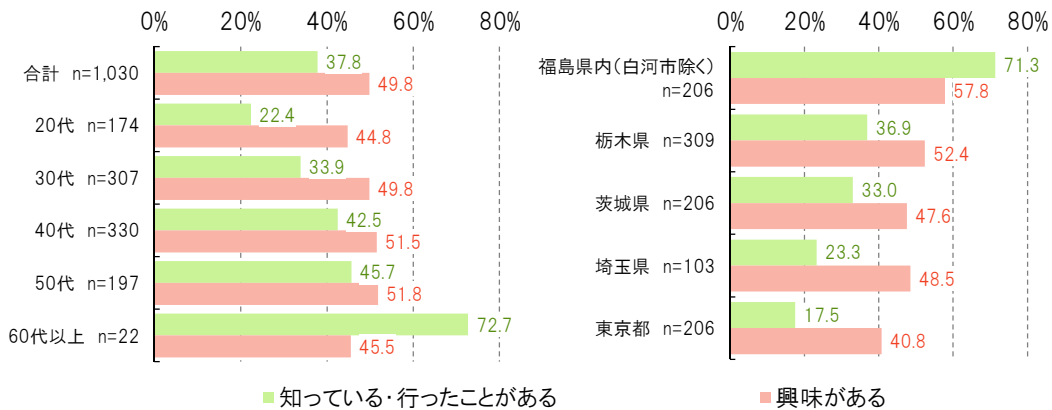
- 日本らしい風景を感じることができる場所である。
- 来訪は冬であったが、四季折々の風景を見たい。
- 南湖のほたりや翠楽苑は、インスタグラムなどSNSで投稿してみたくなるような場所である。
- カフェが賑わっていると入ってみたくなる。
- 専用駐車場が遠い。また、駐車台数が増えると訪れやすくなる。
- パワースポット目的で南湖神社に来る人も多い。
- カフェ目的での利用が増えてきた実感がある。景観的にも「SNS映え」する場所になってきている。
- 滞在時間が限られているため、茶室や翠楽苑の中まで入る人は限られてしまう。

④ 白河関跡

❗ 観光入込客数は増加傾向にあるものの、市街地から遠方であることもあり、来訪者が他の観光地と比べ極端に少なくなる
「白河の関」の名は広く浸透してきているため、さらなる誘客の可能性がある。他の観光地同様、消費活動を促進する仕組みづくりも求められる

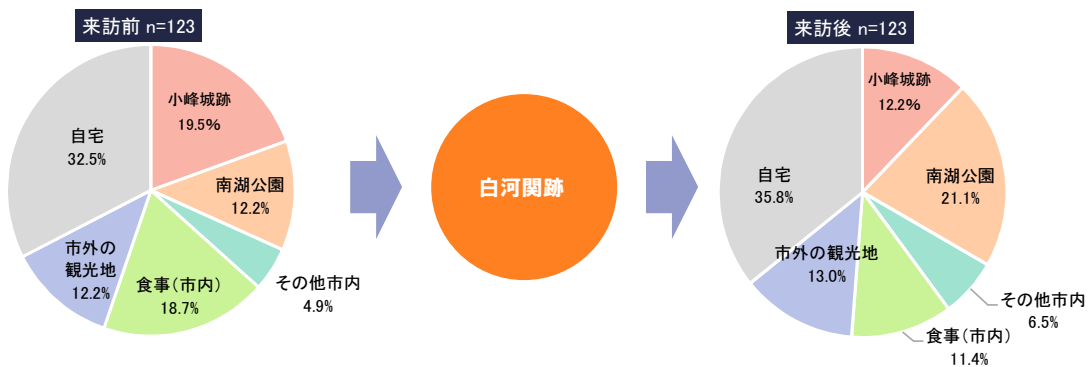
■南湖公園の認知度・興味（市外 web アンケートより）

○「知っている・行ったことがある」割合は60代以上で高いほか、「興味がある」割合はいずれの年代も4~5割台となっています。また、首都圏の認知度が低い一方で、「興味がある」割合は福島県内を含めて4~5割台となっています。



■観光客の動向（前後の来訪場所：白河市来訪者アンケート調査より）

○来訪前、来訪後ともに、「小峰城跡」や「南湖公園」を訪れる他に本市で観光、食事をする人の割合が合計5割を超えており、「小峰城跡」「南湖公園」の来訪者に比べて、市内を観光する人の割合が高いことがうかがえます。



■外国人の反応（平成31年2月実施「モニターツアー」より） ■その他の意見

- 神社の入口（鳥居）やご神木（杉の木）などの雰囲気は、日本らしさを感じる景観であり、興味が湧いた
- 「白河関跡」という場所の歴史が難しく、理解しづらかった。
- 土産物屋があったが、「これを買った方がよい」というおすすめの商品があるとよい。
- まちの中心地から離れており、個人旅行の場合は立ち寄りづらい。
- 他の観光地から離れていることもあり、多くの来訪者を望むことは難しい。バスは通っているが、本数が限られているため、自家用車等での来訪が一番現実的である。一方で、花を目的にした来訪者は一定数いるので、上手くPRしていけるとよい。
- 白河関跡はあくまで「関所跡」であり、どこに関所があったか、また、どこに境界があったかが分かりづらい。「ここが白河関である」という撮影スポットなど、「白河関に来た」という証になるものが明確にあれば、来訪者が増えるのではないかと。

(4) 本市のイベント

❶ 白河だるま市や白河提灯まつりといった伝統行事については、多くの観光客が見込める一方で、その他のイベントについては認知度自体が低い傾向にある。

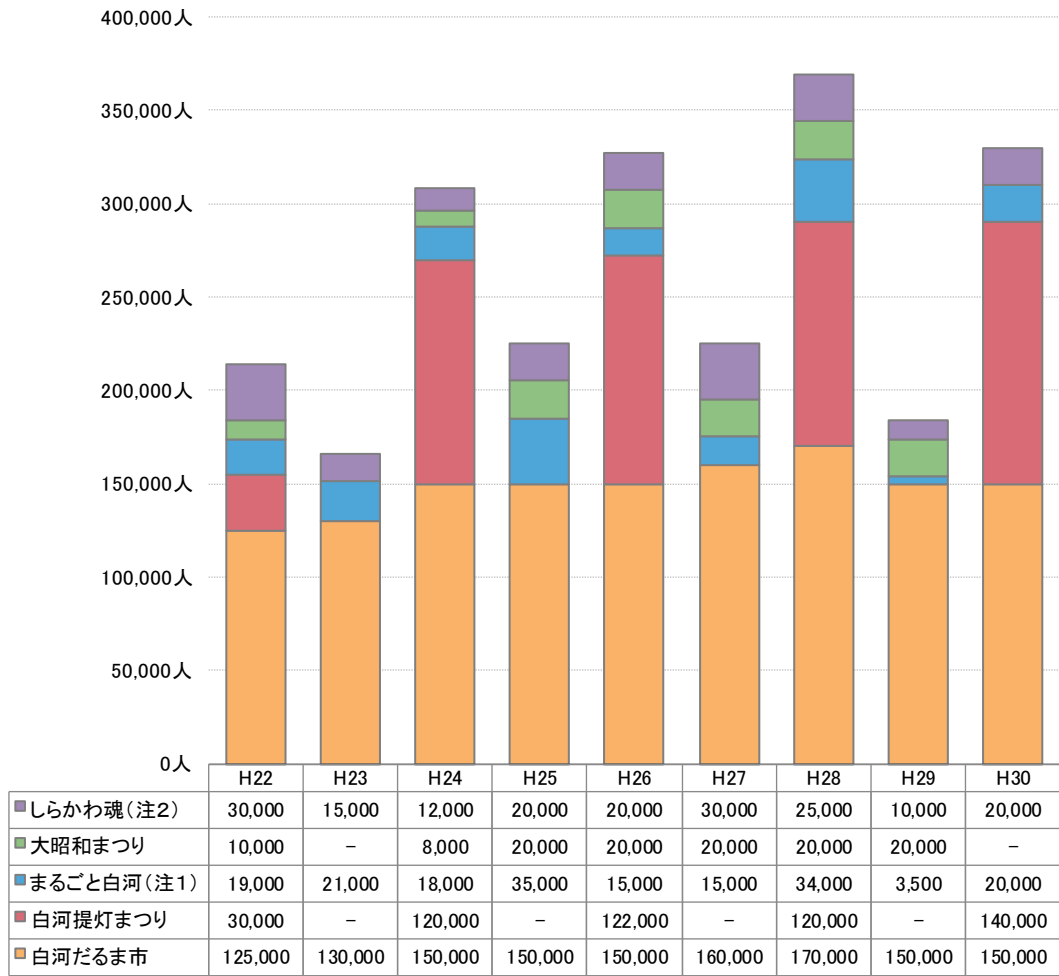
テーマに沿った中・小規模のイベントが多く、来訪の機会は多くあるため、イベントを機に白河を訪れてもらえる仕組みづくりが必要である。

本市では年間を通じて、多様なイベントが開催されており、観光資源の一つとなっています。

本市の主なイベント

4月	かたくり祭り(白河関の森公園)、桜まつり(城山公園、乙姫桜、南湖公園)、権太倉山山開き(大信地域)
5月	南湖神社鎮花祭(はなしずめのまつり)、白河フラワーワールド
7月	関辺の天道念仏さんじもさ踊(関辺八幡神社)、ホテル鑑賞会(白河関の森公園)、十日市の提灯まつり(大信地域十日市集落)、ふるさと川まつり in たいしん(大信地域隈戸川河川公園)
8月	白河関まつり(本町～天神町)、納涼花火大会(城山公園)、釜子盆踊り(東地域長伝寺) 白河盆踊り
9月	翠楽苑 十五夜月見会、白河提灯まつり(鹿嶋神社祭礼渡御祭)、ひがし郷里マラソン大会(東地域東風の台運動公園)、しらかわキャラ市(城山公園)
10月	隈戸川流域健康ふれあいウォーク、翠楽苑 紅葉ライトアップ、収穫祭・そば祭り(白河関の森公園)、まるごと白河
11月	サンライズひがしフェスティバル(東地域東風の台公園)、ふるさと表郷まつり(表郷地域表郷総合運動公園) びゅっこの里ファミリーウォーク in 表郷、天狗山山開き(表郷地域)
12月	義士追悼の集いと義士そば会(関川寺)
1月	鹿嶋神社節分追儺祭(豆まき)
2月	鹿嶋神社の太々神楽、南湖神社節分祭、白河だるま市
3月	奥州白河歌念仏踊(安珍堂)、関山山開き

本市の主なイベントの入込客数の推移



(注1) 平成18年～20年「白河ラーメンフェスティバル」、平成21年「しらかわ食と職の祭典」、平成22～25年「白河どまん中食と職の市」、平成26～28年「Decora しらかわ」

(注2) 平成22年「しらかわ美味しいまつり」、平成23年「しらかわ SOUL (魂) フェスティバル」、平成24年「smile day2012～しらかわ魂」、平成25年「しらかわ魂 80's」

資料：福島県「観光客入込状況」

